



研究背景

HV・EVの普及



- メリット:
- 環境に優しい
 - 走行音が静か

しかし



相対的に
ロードノイズが目立つように

および振動環境の構築

従来

本研究

低騒音化 ⊗ 低振動化

静かで低刺激
↓
物足りなさを感じる



快音化 ⊗ 快振化

適切な刺激を提供
↓
快適な運転環境



研究内容

快適な運転感覚の把握

主観評価や客観評価により
各評価尺度との関連を明確化

- | | |
|------------|-------|
| 主観評価: | 評価尺度: |
| ○一対比較法 | ○走行感 |
| ○VAS評価 | ○高級感 |
| | ○集中 |
| 客観評価: | ○疲労 |
| ○唾液アミラーゼ計測 | ○眠気 |
| ○ハンドル操作のぶれ | |

快適な運転感覚の構築

変更する物理パラメータの検討

音圧レベル ⊗ 振動レベル

周波数特性

運転感覚推定モデルの構築

モデルの検証

モデルを基に構造変更を行い
モデルの妥当性を検証

モデルよりパラメータの決定

パラメータを基に構造変更

構造変更前後での評価比較